

「ミトウチ飲食メニューを考案せよ！2026」の出場へ向けて
 ～茨城県の農業の概要・サツマイモ・干し芋について、宮地校長先生が講義をしました～

令和8年5月7日（木）の3時間目に、生活デザイン科3年生の課題研究「食物」班（生徒8名）において、教科農業が専門の宮地校長先生が、茨城県の農業の概要などについて講義をしました。

課題研究「食物」班では、「ミトウチ飲食メニューを考案せよ！2026」の出場に向けて準備しています。令和8年度の食材はサツマイモで、サツマイモから作られた干し芋の残渣の「はしっぽペースト」（茨城大学干し芋の残渣削減のプロジェクト実行委員会）、または、ペーストにこだわることなく、サツマイモを食材としてメニュー開発することが条件となっています。

イオンモール水戸内原に出店しているテナントの協力のもと、テナントで提供できる飲食メニューを生徒が考案して、6月12日（金）までに提出します。書類審査を通過できれば、7月下旬にイオンモール水戸内原で最終選考のプレゼンテーションを行います。その後、「生徒考案商品」として、期間限定で店舗販売される計画です。

「メニュー開発の活動を通して、より幅広く、視野を広げて考えてもらいたい」との目的で、校長先生が、①茨城県の農業の概要、②サツマイモ（栽培、品種開発、輸出など）、③干し芋（加工・残渣の問題など）について、資料をもとに電子黒板でていねいに説明しました。

生徒から「サツマイモの現在の主力品種は「べにはるか」であること。年間に多くの新品種が出ているが、世の中に広まるのは、栽培、管理、収量、病害虫、食味、形、色、調理、加工など、多くの面で優れている必要がある。「べにはるか」は、大谷翔平選手のようなスーパースターであるという話が印象に残りました」「みんなアイデアを出して、メニュー開発に楽しく取り組みたいと思います」などの感想が聞かれました。

今後、5月下旬に、生徒が石岡市にある焼き芋や干し芋のお店「燈屋」を訪問して、サツマイモの生産や干し芋の加工と残渣の処理について、経営者から話を聞く予定です。



茨城県の農業の現状
 問題8 茨城県の農業の現状についてまとめてみよう。

表 茨城県の農業の現状

項目	数値	全国順位	調査年	備考
総人口	271.6万人	11位	2024年	全国120,295,000人←2019年:126,117,000人 人口減少が進行
総面積	609,754ha	24位	2022年	
農業産出額	5,494億円	3位	2024年	園芸(しも類、野菜、果実、花き)51.3% 畜産が29.8%、米15.5%(割合は、2023年) 園芸部門の割合が高く、かんしょやメロン等産出額上位の 品目が多いことが特徴。
耕地面積	158,300ha	3位	2024年	減少傾向
荒廃農地面積	11,392ha	-	2023年	増加傾向
基幹的農業従事者数	57,496人	2位	2020年	減少傾向、高齢化が進行 平均年齢67.5歳(全国67.3歳)
新規就農者数	333人	-	2023年	青年(16～44歳) 266人 中高年(45～64歳) 67人 前年度より減少(R4年406人、R3年368人)
産出額全国1位の農産物	11品目	-	2023年	かんしょ、かんしょ切り、メロン、ピーマン、れんこん、 切枝、こまつな、みずな、芝、くり、チンゲンサイ

茨城県農林水産業の概況(令和7年6月 茨城県農林水産部)より

